

# 「小さな体験」から「大きな体験」へ

上うえ 廣ひろ 榮えい 治じ

稔みりの秋です。営々として努めてきた事どもが豊かな結果をもたらす季節であります。農作業の現場では、春に種を蒔まき慈いづしみ育ててきた作物が、秋にはたわわな実を結びます。しかしながら、皆様がいそしみ努める人の世の物事は、秋が来たからといって、喜ばしい結果が出るとは限りません。

では、私たちの日々の実践は、いつ、どのようにして大きな実を結ぶのでしょうか。

それは、ある日突然やってくるのです。予兆も予感もありません。いつやってくるか予測することも、人の意思でその時を決めることもできません。まったく突然に、豁然かつぜんとして、目から鱗うろこが落ちるように、倫理の視界が開けるのです。幕で閉ざされていた回り舞台が、カラリと音を立てて全貌を展望させるように、無意識の底に沈んでいた事どもが、整然たる関係を結んで、その瞬間に直観されるのであります。瞬時に光明こうみやう世界に入ったように、その「体験」はやってきます。

実のところ、私たちは数多くの場で、これと同様の経験をしているのです。ただ、それを忘れている

だけなのです。誰でもが、これと似た体験を何度かしているはずなのであります。

例えば、子どもを育てた方なら、どなたでも経験されたことでしょうか、幼児がおしゃべりを始める瞬間というものがあります。赤ちゃんは、お腹の中にいるときから、母親の声を聞き、誕生してからの千日ほどの間、母や父、祖父母の言葉を聞いていただけです。実は、一生懸命勉強しているのです。そしてある日突然、一気におしゃべりを始めます。私たちはみな、そうして言葉を使いだしたのです。

私たちの日々の実践も、黙って言葉を聞き覚えている赤ちゃんの、長い長い時間に似ています。段階を踏んで少しずつ倫理の境地が開けていく、というものではありません。ただただ営々として、溜め込みに溜め込んでいたものが、ある日ある瞬間に、一気に実を結ぶのです。

言葉の遅い子は知能の発達が遅れているわけではありません。ただ、「その瞬間」が、まだやってきていないだけのことなのです。日々の精進を積んでいる限り、遅かれ早かれ「体験」の瞬間は必ずやってくるのです。言葉を話しだす瞬間が向こうからやってくるように、実践が捻る瞬間は私たちの側で決めることはできないのです。ですから、私は「それは、ある日突然やってくる」と申し上げるのです。

赤ちゃんがしゃべりだした瞬間を知らない方は、ご自分が自転車に乗れた瞬間を思い出してください。それまで、何度やっても倒れていたのに、ある瞬間、ふらふらと自転車が走りだし、その時を境に不思議に自転車に乗れるようになったことを覚えておられることでしょうか。

ただ、この瞬間が誰にでもやってくるというものではありません。ここがいちばん大切なのですが、「体験」の瞬間がやってくるのは、「日々たゆまぬ実践精進」を為す者なにのみ限られることです。実践の実が上がらないからと、精進に欠け実践を怠る人おこたには、決してその瞬間は訪れないのであります。

一生懸命勉強に励んだことのある人であれば、誰でも思い当たると思いますが、急に成績が飛躍的に

上がる瞬間というものがありません。毎日毎日、着実に勉強をする。しかし、なかなか結果が出ない。それがふつうです。そこで、多くの人は自分の能力はこんなものだと言明してしまっています。彼はそこでお終い（しま）です。次の展開はないのです。しかし、それにもめげず、ひたすら努力し勉強に励んでいる人の場合には、ある日突然、一気に実力が上がるときがやってきました。予感や予兆はありません。ふと気がつく、目の前が開けていて好成绩を獲得することになるのです。

さまざまな要素が、一定の割合で満たされると、瞬間的に化学反応を起こします。水素2に酸素1で水になります。形のない気体が水という目で見、手で触れるものに大変化するのです。それと同様に、日々の努力は、さまざまな要素を一定の割合まで満たす過程だといつてよいでしょう。

ですから、受験勉強に励んでいる生徒が、果たして合格するかどうかは、その日々の勉強のしかたを見ていけば、容易に推測することができます。すでに、急に成績が上がった瞬間を経験し、しかも努力を続けている生徒は、ほぼ確実に志望を達成すると思われれます。成績の実が上がっていないにもかかわらず、営々孜々（しし）として励む生徒は、合格の可能性が高いはずで、急に成績が上がる瞬間がいつくるのか、試験の当日までわからないからです。しかし、だれたり、逃げたりする態度が見られる生徒は、どんなに優れた資質をもっていたとしても、あとは幸運だけを頼るしかないでしょう。

合格の可能性は、偏差値からではなく、日々の勉強へ向かう態度からこそ測れるのです。受験生をおもちの方は、いまの成績に一喜一憂してはなりません。日々、ひたすら努力を続ければ、必ずその瞬間を「体験」できることを、是非とも教えてあげていただきたいと思えます。

ところで、皆様の間でも「体験」という言葉がしばしば使われています。しかし、その多くが、朝起きをしてから健康になった、親孝行の実践で嫁姑の関係がよくなった、という類（たぐい）の「体験」です。それ

は、試験範囲の英文をすべて覚えたならテストが満点だった、というのに似ています。たゆまぬ努力の積み重ねの結果、あるとき一気に成績が上がった、実力が一段上に飛躍したというのは、その「体験」のあり方に、非常に大きな差があります。

皆様がよく言う「体験」は、こうしたからこうなったと、筋道がたどれる「当たり前前の体験」です。「小さな体験」といつてもよいでしょう。しかし、ここで私がお話している「体験」は、日々営々として積み重ねた実践の結果が、ある日突然、これまでとはまるで異なった光明世界に入ったような、次元の高い「倫理的な体験」です。いわば「大きな体験」です。それは、一歩、倫理の高処たかみに上った瞬間の、喜悅きえつの「体験」なのであります。

もちろん私は「当たり前前の体験」を否定するものではありません。それはそれで尊く大切なものでもあります。その「小さな体験」を積み重ね精進してこそ、いつの日か突然、倫理的な「大きな体験」を経験することになるのです。しかも、その「体験」は実践精進を続ける限り何度でも起こり得るのです。朱子が著した『近思録』という書物に、学問を勧めて、次のような意味のことが書かれております。

とにかく努めに努めよ。ある日突然それは立ち現われる。その瞬間の喜びは、「手の舞、足の踏むところを知らず」というほどのものだ、と。

日々の実践の結果として、ある日突然やつてくる「大きな体験」の感動も、そうしたものであると申し上げることができるでしょう。

努めよ、ただ努めよ。実践、また実践です。そして、早急に結果を求めないことです。それだけが、倫理的な「大きな体験」に行き着く道なのです。さすれば、いつの日か、あなた自身が森羅万象しんらばんしやうと大自然の摂理によって一つに結ばれているということを、ありありと「体験」できることでありましょう。